



# 善正寺だより

揭示板法話

## 自ら生き物を害してはならない

## 他人をして殺さしめてはならない



〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

今月、地域の仏教会主催の追悼法要が私どものお寺で勤められます。地域の「仏教会」という「組織」は仮の仕組みであり、戦後民主化、政教分離原則の下、浄土真宗のお寺で仏式の追悼行事を開催するための先輩たちの「智慧」でした。地域住民の方々の中にはそれぞれ異なる宗教、宗派の人が含まれているにもかかわらず、遠路お招きしたご講師の法話を一緒に聴聞していただく習慣が根付いています。この伝統は誠に有難いことで、先人のご苦勞に感謝しなければならぬと思います。

しかし、戦後六十八年の歳月が流れ、戦没者追悼の念が薄れ、平和が当たり前のことと考えられる傾向がなきにしもあらずです。

ところが、最近隣国との間で「領土問題」を巡って、緊張関係が続いています。そのため、最近実施された両国民の意識調査によると、「互いに相手国のことを嫌いだ」という意見が9割近いという結果が出てきました。これは感情論であり、冷静さを失いつつある兆候と言わねばなりません。

エアコンのタイマーが切れて寝苦しくなったある夜半過ぎ、ふとお釈迦さまの話思い出しました。

ある年、釈尊の故郷の東側を流れるローヒニ川をはさんで釈迦族とコーリア族の間で渇水のため水争いが起こり、今にも戦争が始まるうという事態になりました。その時、お釈迦さまは両軍がにらみ合う川の真中に姿をあらわし、静かに説かれました。

「よく聴くがよい。水と生命とどちらが大切であろうか。激情に駆られて水のために生命を失ってはならない。人間は困難な時ほど助け合い、どんなことがあっても殺し合いだけは避けなければならぬ。これを聞いた人々は矛を収め、やがて平和が蘇ったということだ。」

勿論、現実には簡単に解決できるものではありませんが、日本だけでなく、アジア各方面でも領土問題があり、外交的努力や民間交流によって先鋭化を和らげる努力が続けられています。幼い子供たちの顔を見るたびに、「この子達を決して戦場に送ってはならない」とつ

くづく思うのです。  
「生き物を(自ら)害してはならない。また、(他人をして)殺さしめてはならぬ」という釈尊の言葉を心の耳を澄まして真剣に聴かねばならないと思えます。長年続けられてきた地区仏教会の追悼法要は、子や孫の時代に平和な国を引き継いでいく、大切な仏法相続の法縁なのです。

## 今月の写真 アラカルト



1歳5ヶ月を迎えて



住職テレビ出演、県文化賞をPRしました！

### ☆行事ご案内☆

## ◇小杉町追悼法要

### 9月22日(日)

午前10時:年間物故者、午後1時:戦没者

講師:鎌田宗雲先生 (滋賀)

主催:小杉町仏教会、三全仏教婦人会、長寿会

※日曜夜の門信徒会例会、9月はお休みです

◇キッズサンガ「9月7日(土)午後4時より『集い』、新しいお友達もぜひどうぞ。毎日5時の鐘つき、年中無休  
善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が見られます。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。

開設5年1か月で11万8千訪問、一日平均100程、コメント大歓迎、  
◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へお電話を！5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます

三重組コーラス 9/2(水)西勝寺様での練習、

※親鸞聖人750回大遠忌法要が平成28年5月15日に決定！

8月中旬に総代さん、行事さん、住職が趣意書をもって巡回、

※来年4月19日午後『初参式』を受ける赤ちゃん、幼児を大募集

※百五銀行阿倉川支店ロビー展、10月1か月間『第3回善正寺門信徒展』依頼、作品大募集！写真、絵、書、陶芸他、何でも結構

# 坊守スケッチ



## 『宗教』は用意した雨傘みたい？

いささか不謹慎でおかしなタイトルをつけて「勘弁頂きたい。これは三十年以上早朝散歩を続けている、私の体験から生まれた言葉だ。」

朝出かける前にどうも雲行きが怪しい。途中で降られるのではないかと心配する。いや帰ってくる頃までは多分大丈夫？雨傘を持っていくべきか否か迷う。ええい、面倒だ、降られたら降られたままよと、横着を構えて何も持たずに出かけると、十中八九、慌てて引き返すか、ずぶぬれになって帰り、風邪を引いたことが度々あった。これがどうして宗教と結びつくのだろうか？今から説明しよう。

私の知り合いに「私は無宗教です。別に宗教がなくても生きていけます」と、堂々と言い放つ人がいる。それが結構なお歳で、社会的地位があり、高学歴の人なのだ。確かに宗教を持たなくても、何不自由なく生きていける。健康な体と能力とお金さえあれば、自分が望むほとんどのモノが手に入る。顔も知らない人と、ネットで知り合い友達もできる。「宗教なんてそんな邪魔くさいものはいらない」というのが、無宗教の人々の主張だ。

宗教を生活の基盤にしている外国人から見たら「食べて寝て自分さえ楽しければ、それでいい人生ならば、動

物と少しも変わらないのではないのか？」と軽蔑されそうな気がする。

そもそもお釈迦様は「人生は『苦』なり。苦の中でも特に『生・老・病・死』の四つの苦は、必然の理なり」と、お説きになった。若くて健康な時は、この四つの苦が順番にやってくると思いがちだった。しかしこの順番が時には狂う。それもある日突然やってくる。そんなとき慌てふためいて「何故私だけがこんな目に遭わねばならない」と周囲を怨んでみても始まらない。そんな時こそ宗教の出番！自分にとって不都合な出来事が起こった時、その中に自分の生きる証を見出す。その苦を乗り越えて感謝することのできる人生に導いてくれる。これこそが『宗教の力』だと思ふ。

私が用意した雨傘は、突然の雨から身を守るだけではなく「いつでも大丈夫！」という安心感を与えてくれる。この安心感こそが、不安の多い現代には必要なことではないだろうか？

傘は夏の日照りの強い朝には、日傘の代用にもなる。美白化粧品を塗るよりもずっと効果的。険しい山道には杖の代わりになる。時にはキツネ等に出くわすこともあるので身を守る用心棒。背中にして歩けば、背伸ばし棒になる。私にとっての雨傘は、雨傘



の役目だけではなく、日傘、杖、用心棒、背伸ばし棒と、幾通りにも役立つ。『宗教』も、人生で出会う様々な苦に、時には支え、励まし、乗り越えられる『安心』と『柔軟性』を与えてくれる、私には雨傘のようなものだ。

### ☆寄稿

四日市市 川崎孝一  
☆掃く道で 朝の挨拶 出来る人  
出来ない人も この道通る

☆投票所 近くが楽と 早合点  
管轄違う 老いの仮住まい

四日市市 E・I  
☆愚痴さんの 横で顔だす  
おかげさん

☆老ゆるとは 耐ゆることなり  
冬の虫(田端雅司作)

☆恍惚となりしに 念仏の忘れざる  
夫拝みつつ 看取りといふも  
(渡辺まさ作)

四日市 駅 妙水  
☆白い歯の 吾子の笑顔や 夏座敷

☆百五銀行阿倉川支店で今年十月一  
か月間「第三回善正寺門信徒展」開催  
の依頼。展示作品を大募集！写真、  
絵、書、陶芸、何でも結構です。今年  
は作品の集まりが少ないので奮って  
ご応募下さい。

☆8月6日朝、自治会、仏婦、長寿会  
役員各位と総代さんにお集まり頂き  
9月22日の『小杉町追悼法要』の入  
念な準備確認。皆さまのご参拝を！

☆来年(平成26年)4月19日(土)  
午後初参式を受ける赤ちゃん、幼児を  
大募集！三全仏婦主催。会費千円。

☆善正寺のホームページ。三重 善正  
寺で検索可。毎日更新の『住職と坊守  
のつれづれ日記』が好評。開設5年1か  
月で11万8千訪問。毎日平均100  
訪問。悩み相談、コメント大歓迎。

【平成25年度今後の善正寺行事予定】  
※9月22日(日)午前・午後『小杉町仏  
教会追悼法要』講師鎌田宗雲師(滋賀)  
※11月2日(土)午後・夜3日(日)午  
前『報恩講』講師藤大慶師(京都府)  
※11月23日(土)午前秋勧進  
※12月7日(土)夜『お内仏報恩講』  
※12月31日夜11時45分除夜の鐘

☆8月中旬に総代さん、行事さん、住職  
が年間会費と3年後のご法要懇志の  
趣意書を持って巡回。皆様のご理解と  
ご協力に感謝。早々振り込んで頂いた  
方もあり、厚く御礼申し上げます。

☆8月15日終戦記念日の正午に、戦  
争のない社会の実現を願って『平和の  
鐘』を撞きました。

☆来年(平成26年)4月19日(土)  
午後初参式を受ける赤ちゃん、幼児を  
大募集！三全仏婦主催。会費千円。

### ☆編集子より ☆

「善正寺だより」二三七号をお届けしま  
す。◇例年になく猛暑が長く続きまし  
た。皆様、暑い夏を無事乗り越えて下  
さったでしょうか。お伺い申し上げます  
◇暑い夏、沢山水や電気(エアコン)を使  
ったが、「当たり前」ではない。陰の尽力  
やご苦労あってこそ、です。「おかげさ  
ま」と頭を垂れるほかはない。合掌。

夏休み中、映画館では子供に大人気の「アンパンマン」が上映中です。その主題歌には、ハッと驚かされるような歌詞が登場します。作詞者はアンパンマンの生みの親、やなせたかし氏。その一部を紹介しましょう。「何の為に生まれて何をして生きるのか？ 答えられないなんてそんなの嫌だ。何か君の幸せ、何をして喜ぶ解らないまま終わるそんなの嫌だ。時は早く過ぎる、光る星は消える。だから君は行くんだ、微笑んで、こよく味わってみると、子供向けの歌というよりは、仏教的な意味合いの濃い歌詞です。何故生きる意味を問うのか？ 何故弱さを歌っているのか？ 何故愛と勇氣だけが持たないのか？ やなせ氏がアンパンマンを描いた背景を調べてみました。彼には特攻隊で死んだ弟がいました。彼自身も戦争経験者ですが、戦中・戦後の空腹の苦しさを知っていました。武器を持って悪い敵と戦うのもカッコイイが、先ず飢餓に苦しむ子供達を救うのが、彼の夢でした。自らの頬を食わせて子供に愛と勇氣を与えたい。それがアンパンマン誕生の動機です。今年で80回目の終戦記念日、豊かさに慣れた私達は、空腹の時代を耐え抜き、平和の礎を築かれた人々のご苦勞を忘れからず、9月22日は小杉町の追悼法要、午前は年間物故者、午後は戦没者を偲んで感謝する集いです。地域の絆が薄れがちな昨今、所民あゆでの追平会にぜひご参詣下さいませよう。ご案内申し上げます。金澤

平成二十五年九月

善正寺坊守 拝